

【カリキュラムの見方について】



【0歳～5歳】

子供の発達特徴と各年齢で目指す子供の姿を押さえながら、子供の育ちをはぐくむ活動を幼稚園・保育所の実態に応じて、その時期に選べるようになっています。

【小学校1年生入門期】

幼児期の学びや経験をもとに、環境構成や指導の工夫を生かした、新しい友達や先生、新しい生活、教科学習との出会いへつながるようになっています。



- ・学習活動欄の教科名の次の番号(太数字)は、指導案の中の活動番号を示しています。

また、活動番号は、36ページ～39ページの「入学して2週間までの指導計画」の番号に対応しています。

<みんなとなかよし(生活9・国語・音楽1・図工1)>
<気持ちのよいあいさつ(道徳1)>

- ・1つの単位の中で、他教科の学習活動で使ったものを活用する場合など、活動番号が重複しているものもあります。
- ・主としてそのねらいを達成するために計画できる学習活動を矢印で結んでいます。1つの学習活動に複数のねらいを含む場合には、いくつかのねらいと学習活動を矢印で結んでいます。

【ひのっ子カリキュラム】

柱	カテゴリー	学年		就学時に目指す子ども像	1年生入門期
		発達の特徴 カテゴリーの定義	0歳児 ～5歳児3学期		発達の特徴
人とのかわり	3つの柱をカテゴリーに分けて表記した。	カテゴリーごとに、内容を表記し、定義が分かるようにした。	学年ごとに、おおまかな発達の特徴を記した。 目指す姿 その時期に育てたい姿を記した。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの良さを認め、相手を思いやれる子 ・みんなと楽しく生活する子 ・考え、試し、工夫する子 	ねらい
生活			活動例 その時期に、どこでも取り組むような活動例を挙げて、その中のいくつかを「活動例○」として詳細を後ページに記した。		ねらい → 学習活動 単元名または活動名及び教科等を示した。
学び					

- ・学びの連続性、育ちの連続性を3本の柱で考え、それぞれの柱を更に2つのカテゴリーに分けて表記しています。また、それぞれのカテゴリーの定義については、委員会でも検討した内容を記載しました。
- ・カリキュラムは、0歳の時期は柱やカテゴリーでとらえず全体をひとくくりで見ようになっています。1歳からは柱ごとに目指す姿を記載し、3歳からは「生活」と「学び」をカテゴリーでとらえるようになっています。
- ・「学び」の柱は2つのカテゴリーを更に7つに分けて定義していますが、乳幼児期は2つのカテゴリーでとらえています。また、小学校1年生入門期には7つに分けて表記した定義のうち、言葉と表現遊びが国語の中に含まれています。
- ・学年ごとの発達の特徴を踏まえて、各園の指導計画から共通するねらいや姿を選び、「ひのっ子」としてその時期に育てたい姿として記載しました。
- ・目指す姿を育てるために、適していると思われる活動の中で、多くの園が取り組んでいる活動を掲載し、その中のいくつかを「活動例○」として、19ページ～32ページに詳しい事例を掲載しました。